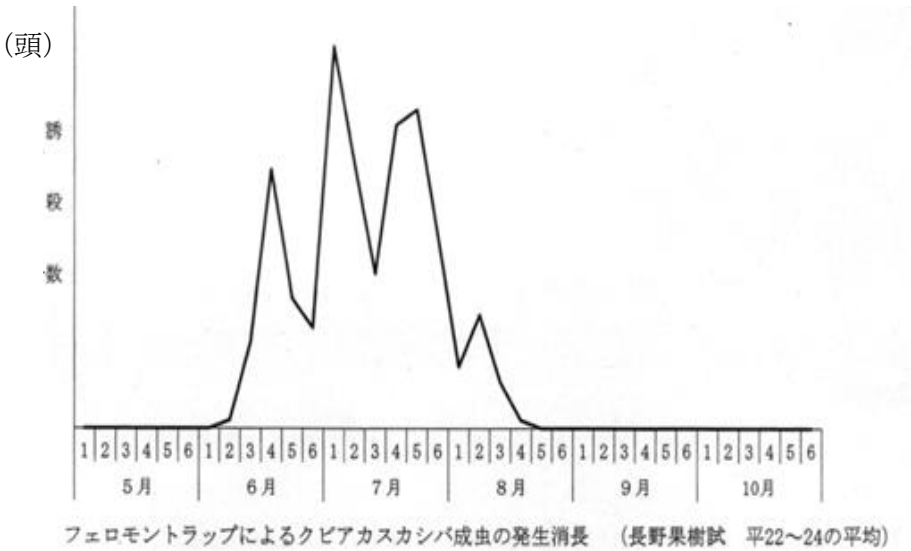


クビアカスカシバのフェロモントラップ誘殺消長（令和7年（2025年）調査）

病虫害防除部

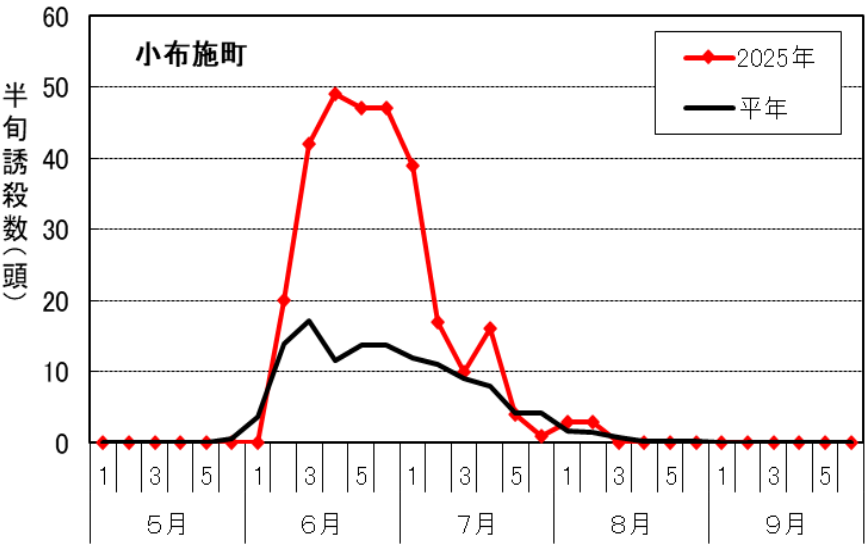
2010年から2012年までの消長模式図（果樹試験場内）



【発生生態と防除のポイント】

- ・年1回発生する。
- ・終齢幼虫が10月頃被害樹から土中に移動し、地表から数cmのところで土繭をつくり越冬する。
- ・成虫は6月中旬頃から羽化し始め、8月中旬頃まで産卵する。
- ・体長は約3cm、翅は透明で外観はスズメバチに似ている。
- ・食入部の早期発見や枝幹部への薬剤のかかりを良くするために、休眠期に粗皮削りを行う。
- ・落花10日後（果粒の小豆大期）までと7月下旬から8月上旬（袋掛け後）の2回、登録のある殺虫剤を枝幹部に十分かかるように散布する。
- ・幼虫の被害部を見つけたら捕殺する。

○小布施町（病虫害防除部）



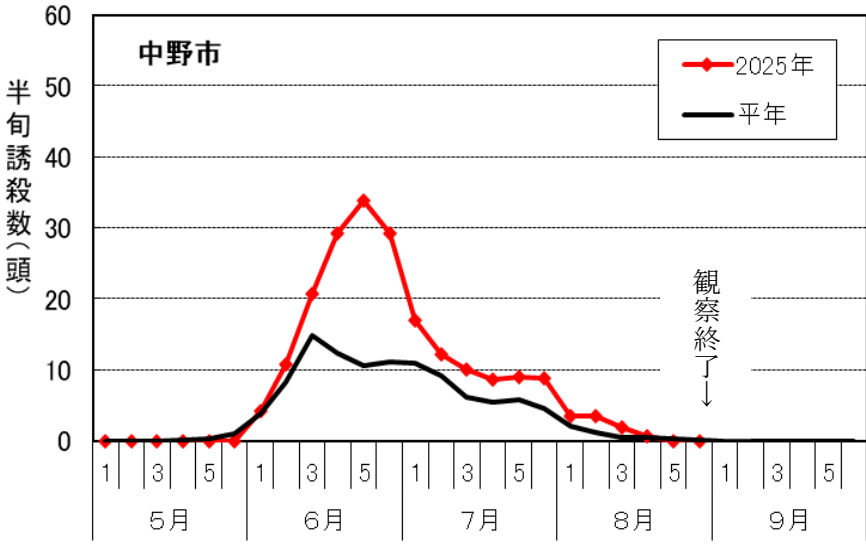
【調査地点】（標高約340m）

- ・小布施町（ぶどうほ場）
- ・平年は2015年～2024年の平均値

【コメント】

- ・8月第3半旬以降は9月末まで誘殺は観測されていない。本年のフェロモントラップへの飛来はほぼ終了したと考えられる。
- ・2025年の誘殺について、誘殺消長（誘殺増減の時期）は平年とほぼ同じとみてとれるが、誘殺数は平年よりかなり多かった。誘殺数に関して、平年はほぼ一定の数が誘殺され続ける傾向があるが、本年は誘殺数の急激な増加と減少がみられた。

○中野市（北信農業農村支援センター調査協力）



【調査地点】（標高約360m）

- ・中野市（ぶどうほ場）
- ・平年は2015年～2024年の平均値

【コメント】

- ・8月第4半旬以降の誘殺は観測されず、本年のフェロモントラップへの飛来はほぼ終了したと考えられる。
- ・2025年の誘殺について、誘殺消長（誘殺増減の時期）は平年とほぼ同じと見てとれるが、誘殺数は平年よりかなり多かった。また小布施地点ほどではないが、本地点でも平年より比較的大きな誘殺数の増減幅が観測された。